

こんなときは

新潟日報紙「健康」欄に読者の質問に答える形で連載

Q：18歳になっても生理がない

18歳になりますが、まだ生理がありません。身長154センチ、体重55キロ。太っていると無月経か不順になると聞いたことがあります。59年1月と60年1月に1週間くらいずつ出血したことがあります。

(新潟市・I子)

A：肥満も一症状の内分泌異常

月経のないことを無月経といますが、原発性無月経(18歳までに初経のない婦人や、16歳までに初経がなく乳房の発育がない婦人)と続発性無月経(1度あった月経が停止したもの)に分けて考える必要があります。59年、60年の1月に1週間みられた出血は、月経であったと考えられますので、続発性無月経と思われます。

月経がみられるためには、・脳下垂体から卵胞を刺激するのに十分な量のゴナドトロピンが分泌され・卵巣に卵胞が存在し、必要な酵素機構があること・子宮内膜や生殖器経路に解剖学的異常がないことが必要で、これら3つのうち1つでも欠陥があれば無月経となります。

あなたの場合、過去2回の出血を月経と考えれば、少なくとも子宮内膜や生殖経路の異常はないと思われれます。従って、この場合、無月経は内分泌系の異常による一症状と考え、また身長154cmで、体重55キロというと標準体重をはるかに超える肥満状態といえますから、これも一つの症状と考えられます。無月経で肥満という症状から考えられる疾患はいくつか考えられますが、他に身体的に異常はみられませんか……。

無月経を中心とした内分泌系の異常疾患を考える場合、肥満、体毛の増加、陰毛、陰核の状態、乳房の発育、顔ぼう、ニキビなどが重要な臨床症状としてあげられます。内分泌系の障害部位は、血中のホルモン測定によって診断可能ですが、病名を決め適切な治療をするためには前述した身体的な所見が必要です。